今、必要な福祉の担い手

人が困りごとを抱えたときに、乗り越える手助けをするのが福祉。高齢者や障害者となったときの日常生活のサポートなど、どんな方でも福祉は身近に存在しています。
その福祉の現場が、今、人材不足に悩まされています。
どうしたら人材不足を解消できるのか、福祉の現場の実態に迫ります。

▶地域福祉課☎23-3697

高齢者の介護保険サービスや障害者の障害福祉サービスは、利用する方の希望に合わせて変化してきました。大きな施設に利用者が集中する形から、身近な地域でサービスを受けられるよう小規模な事業所が点在する形へと変化し、働く介護職員の数も増えてきました。

しかし、サービスが多様化し、高齢化が進んだことにより、介護保険サービス、障害福祉サービス利用者が増加し、介護に必要な職員が不足し始めています。そのうえ、人材不足から一人への負担が増え、多忙を理由に離職してしまう人も多くなっています。

県内の介護職員の需給推計をみると、平成37年に必要とされる職員数は約13万1000人、一方で供給可能な職員は約10万7000人で、不足する職員数は約2万4000人となります。全国では、30万人の職員が不足する見通しを厚生労働省は示しています。

誰もが必要になるかもしれない福祉の現場の人材不足を、どのようにしたらよいのでしょうか。

皆さんは、介護の仕事に対して「きつい」「つらい」といったマイナスイメージを持っていませんか。

果たして介護は、そのイメージ通りなのか、田原市の介護現場で働く人たちにお話を伺いました。